

国際サーカス村通信	VOL.17 N003	2013年 1月 17日 (木)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 mura@circus-mura.net http://www.circus-mura.net		

● 3月18日（月）授業開始

サーカス学校12年目後期に当たる授業は、3月18日（月）に開始。

サーカス学校周辺の放射能数値がかなり高く、一昨年12月の発表会以降半年間の休校期間を設け、みどり市による昨年8月の校庭への盛土、9月末の体育館周辺の汚染された汚泥の除去などの対策後、10月1日に再開したが、今も野外の放射能数値はそれほど低くなっていないし、場所によっては0,5マイクロシーベルト毎時前後の高い数値がカウントされている。

ただ体育館内は、0,1マイクロシーベルト毎時前後となったので、原発事故以前に戻ったわけではないが〈原発事故以前の状況に戻すことが、東電、国の責任であって、この程度の数値なら安全だというのは、ある意味で原発事故の隠蔽に他ならないことを肝に銘じておこう〉、ここ沢入での再開を決断した次第である。

再開したものの、それまでの在校生は辞めてしまったので、新たに入学した4名の新入生との授業となり、いささか淋しいのは事実だが、4名とも練習には熱心なので、彼らの成長を楽しみに活動を続けていくつもりである。ただ、このままでは協会・学校の運営そのものが経営的に行き詰ってしまうので、より多くの生徒に入学してもらうよう努力をしなければならない。

● 本年度のワークショップは、岐阜県恵那市の山間部で

例年行っているナージャ先生のワークショップを、今年は次ページの場所で行うことにした。この場所を選んだのは、サーカス学校休校中、サーカス学校の移転先を探していたのだが、岐阜のパフォーマーで、ワークショップに度々参加しているくす田くす博（安田和博）氏が、この場所を移転先としてどうかと提案してくれたことから話しが進んだ。サーカス学校移転そのものは、かかる経費、生活をするためのもろもろの条件などが厳しく、無理と判断せざるをえなかったのだが、練習場として使える体育館は、現サーカス学校よりも天井が高いこともあり、一度、この場所でワークショップを行い、実際の利便性などを検討したいと考えたからである。このことにくわえて、名古屋など東海地区からのワークショップ参加者が多いので、その点でもメリットがあるのではないかと判断した。

次ページの要項で行うので、サーカス学校入学希望者、パフォーマーの方々にお声を掛けていただければと思います。

期間	2013年6月23日(日)～7月1日(月) 23日(日) 集合 24日(月)～30日(日) 9:00～17:00 練習(12:00～13:30 昼休み) 1日(月) 解散
場所	奥矢作レクリエーションセンター 住所 岐阜県恵那市串原 1149-2
参加費	全期間参加 45,000円(一日単位の場合は、7,000円) ※ ワークショップ料・宿泊費・食事代(朝食・夕食)・保険料金
募集人員	10名前後
ルート	JR 多治見駅集合。現地まで車での送迎。 (集合時間は参加者の方々と相談します)
協力	NPO 法人 奥矢作森林塾

●ケベックサーカス学校に入学して一沢入国際サーカス学校卒業生 目黒有沙

2011年12月に沢入国際サーカス学校を卒業した後、表現力を磨くために現在ケベックサーカス学校に通学、カナダに住んでいる目黒有沙さんに、学校の様子や暮らしぶりを教えてもらいました。

2012年8月17日 12時頃 成田国際空港出発

13～14時間かけて乗り換え空港のシカゴオヘア空港へ到着。預けた荷物を受け取り、再び預けてからモノレールに乗って移動後、5時間待機。人生で初めて一人で海外に来たので、かなり緊張して待つ。

8月17日 12時頃 シカゴオヘア空港 出発

成田から乗ってきた機体よりもかなり小さいものに乗替え、モントリオールトルドー空港へ向かう。隣の男性の臭いで酔っぱらってしまい、たったの3～4時間がとてつもなく長く感じた。

到着後、すぐにオルレアンエクスプレス(長距離バス)のチケットを買う。これで、モントリオールからケベックシティまで65カナダドルで行くことができる。しかし、時間が過ぎてもバスが来ず45分程遅れて乗車。海外っぽいなぁと思いながらケベックシティへ。

8月17日 21時30分頃 ケベックシティ ダウンタウンにある駅に到着

予定より1時間程遅れていたが、迎えに来てくれていた友人のイネスちゃんとこれから一緒に住むルームメイトのポリーンに無事合流することができた。15分程歩いて家に到着。

家は学校から徒歩10分の場所で目の前に小さな図書館がある。個人の部屋が3部屋・バスルーム・居間・キッチンがあり、なかなか広い。家賃は月265ドル。

もう一人のルームメイトのカミーユは何処かに出かけているらしく会えず、この日はポリーンのベッドを借りてすぐに寝る。

翌日、時差ぼけで大分早い時間に目が覚める。退屈だったので散歩に出かけるとサーカス学校を発見。外からはあまり中を覗けなかったので諦めて帰宅。



11時ごろ起きてきたカミーユと挨拶を交わす。その後、ポリーンとベッド等の必要なものを買に行く。だだっ広いガレージのような所に中古や新品の家具が雑然と置いてあり、そこでベッドを買った。お店の人の肩にインコがとまっていて、 unnecessary 紙を貰いひっきりなしに千切っていた。

←友人のイネス、ルームメイトのポリーン、カミーユとカナダの家にて
(左から二番前が目黒)



こちらではベッドは新品を買ひ、その他の家具は中古を使ったり知り合いから譲ってもらったりするのが一般的らしく、規模の違いはあるが同じような店がいくつも見られた。

帰宅後、カミーユから部屋の壁はその時の住人が好きにしているという事を教えてもらった。そんな事は初めてだったので本当かどうかイネスちゃんにも確かめ、好きに塗って大丈夫だ、と聞いたので今は私の部屋の壁にも絵が描いてある(写真左)。私たちの家の家事分担は掃除だけで、その他の洗濯や炊事は各々が好きにやっている。掃除の分担は、キッチン・バスルーム・居間+ゴミ出しを週ごとにローテーションしていくという形をとっている。

←これはお城…ではなく、駅。おとぎ話に出てくるような凝ったつくりの建物が多い。



食事は、たいてい歩いて5分程のスーパーで食材を買って作っているが、日本に比べて食品の値段が高いのであまり無駄遣いはできない。

果物は少し安いですがアレルギーがある為かなり限られる。少し意外だったのが緑茶や袋麺などが普通に売られていたことだ。その他の日本の食材や調味料も、高いが「金山」という輸入食料品店で買うことができる。

家や学校のある地区はリムワールと言ひ、川を挟んで向かい側の駅や城のある観光スポットを、私は市街地と呼んでいる。

市街地には劇場や博物館、アーティスト通り、土産物屋、教会、城などがあり、夏は観光客で賑わう。また、城近くの広場ではお金を払えば誰でも大道芸ができるので、サーカス学校の生徒も夏休みの間パフォーマンスをすることがあるらしいが、私が行った時はもう夏の終わりで観光シーズンも過ぎた後だったので、ミュージシャン以外見ることはできなかった。

しかし、8月末まで公演していたシルク・ドゥ・ソレイユの野外で行われたフリーショーは見る事ができた。四角い鉄の箱が組み合わされたような巨大なステージで、明るく近代的なショーだった。演目やアーティストのレベルが高く、観客も多い。これを無料で見られるなんてラッキーだなあと思った。因みにこのショーにケベックサーカス学校の卒業生と縄跳びの日本人グループが出演していたことを後で知った。

8月20日 ケベックサーカス学校 新学期

初めて学校の中に入り、その広さや設備の良さに驚いた。入学式や集会のようなものは特になく、

9時から授業があるというので、私のクラスを教えてもらい音楽のレッスンを受ける。そこで初めて自分のクラスメイトに会い、軽く自己紹介をする。私のクラスは7人でカナダ人4人にアメリカ人2人、そして私という構成で、私とアメリカ人の一人以外は流暢にフランス語を話す。先生もカナダ人で時々英語で説明してくれるが、ほぼフランス語で授業が進む。

この音楽のレッスンは日本の学校でやるような歌を歌ったり楽器を演奏したりということはず、体や身の回りの物を使ってリズムを奏でたり、音楽にはどのような種類があるのかを調べたり、曲を聴いてどのようなイメージがあるかを話したりする。この授業が毎週月曜日に1時間30分ある。

その後、ダンスルームに移動してコンテンポラリーダンスのレッスン。

ここでは先生に対して自己紹介。その後床に寝て自分の体がどのように動くか血が巡っているかを感じて、と言われる。この日はあまり体は動かさなかった。

昼休み、12時から13時までが昼食時間で、家が遠い人は弁当を持参して学校のカフェテリアで食べる。カフェテリアには電子レンジがあり、温かいご飯を食べることができる。その他にもコーヒーや軽食、ジュースの自販機もある。家が近い人や午後の授業に余裕がある人は自宅に帰って摂る。カフェテリアは広い。が、皆1つのテーブルに集まって食べるのが少し変な感じがした。

昼食後、生徒や教職員が集められ学校のルールや諸々の説明、今年(2012年)学校に入った生徒の紹介などがされた。

この学校には大きく分けて2つのコースがある。ひとつがプレパレトリーと言われる準備段階の生徒。ほとんどの生徒がまずここに入る。もうひとつがプロフェッショナル。3年間のカリキュラムが組まれていて、私はこの1年生に合格した。この年は、例年より受験者の数が多く合格者も多かったらしい。全員で20人程がプロフェッショナルの1年生に成った。

その後、証明写真の撮影、個々の時間割の配布、トウモロコシパーティーを経てその日は解散になった。

次の日から授業が始まった。

私の時間割は朝9時から17時40分まで授業が入っていて、他の人に比べると結構長い。午前中は音楽、ダンス、演劇などサーカス芸以外のもの。昼食後、自分で選んだ芸を学ぶ。

私が選んだのは、第1コントーション。第2ハンドトゥハンド。第3エアリアルアート。この3つは時間がきっちり決められている。



第1は1時間30分×週5+自主練習(1時間30×週2)

第2は1時間×週4

第3は1時間×週2

この他に私の時間割は授業と授業の間が長く空いている所が何箇所かあったので、ガリトンに頼んで間に倒立のクラスに出ることを許してもらえた。ガリトンとは先生達を統括し学校内の様々なことを決定する人で、顔は少々怖いがとても優しいおじいさんだ。

←第2専攻のハンドトゥハンドでパートナーのポリーンとポーズ(右;目黒)

こちらの学校に来て授業を受けていて感じることは、先生が生徒の自主性を重んじていること。そして、生徒はそれが当たり前なの

か元々そういう気性なのかは分からないが、積極的に授業を受け、進めていく。授業そのものを楽しんでいるのがよく伝わってくる。

だが、彼らは楽しんでいるだけでは当然なく、明確な目標を持っていて、そこに向けて精一杯努力をしている。そのモチベーションはあまり下がることはない。疲れで一時的に下がることはあっても、また持ち直してくる。それは卒業生達や現在様々なステージで活躍しているアーティストの練習を間近で見ることができるからではないか、と思っている。毎日刺激を受けることができる、それは嬉しいことであるが、同時に焦りも生じてくる。今はその焦りを抑えつつ、冷静に自分の目標点まで到達するように日々励んでいこうと思う。(目黒有沙)

(2012年12月に一時帰国し寄稿、2013年1月11日にケベックシティへ戻りました)

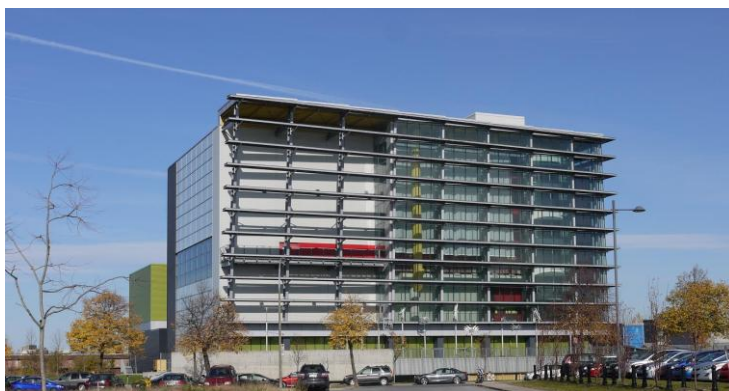
●北米、サーカス学校を周る旅 <その弐>

◆2012年10月23日(火) <国立モンリオールサーカス学校>

7:00 長距離バスに乗り、ケベックシティを後にしました。次に目指すはモンリオール。お昼12:00前にモンリオール着。適当にホテルを見つけてチェックインを済ませ、荷物を置いたらさあ出発。

モンリオールのサーカス学校といえば、シルク・ドゥ・ソレイユの本拠地にあるエリート校、国立モンリオールサーカス学校(通称『ナショナル(National)』)。カレッジ卒業資格を得ることのできる北米最大のサーカス学校で、卒業生の多くはシルク・ドゥ・ソレイユやシルク・エロワーズ、セブンフィンガーズなどのカンパニーに入るそうです。

こちらには、巷で噂の教え方が卓越しているというコントーションの先生がおり、ぜひ一度練習を見学させてもらいたいと願っていたので、この機会にアポをとろうと出発前に何度か連絡をしていたのですが、まったくダメでした。ケベックサーカス学校がオープンな気風であるのに対して、ナショナルは外部者の訪問に厳重で、特に練習風景の見学は難しいようです。また、サイト上にあるメールアドレスはほとんど機能していないとか。みなさん、訪問の際は電話などでアポをしっかりとられますよう。また、プロのアーティストであれば学校内の練習場を借りることもできるそうです。



←国立モンリオールサーカス学校、外観。建物は7階建て。

それでもケベックサーカス学校で知り合った先生のお力添えで、メインのトレーニング場が見下ろせる受け付けまで入らせてもらえました(撮影禁止だったのでここに掲載する写真はありませんが、学校内の様子は当該校ホームページや動画サイトで観ることができます)。

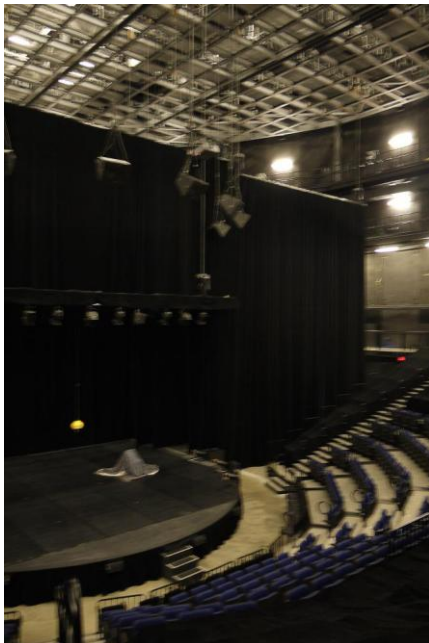
入り口を入ったらすぐ喫茶スペースがあり、講師や生徒たちがコーヒー片手にくつろいでいます。ガラス張りの壁からはメインのトレーニング場が見下ろせました。なんでも、建物3階分の高さだとか。驚いたのは、なんとその上の階にそっくり同じ広さ・高さのトレーニング場がもうひとつあ

るというではありませんか。話には聞いていましたが、なんて立派。倒れそうになりました。その他トレーニング場や授業を行う教室や図書館、学生寮などもあるそうです。生徒約 160 名に対し、先生は約 80 名。授業は 8:30 から 17:30 ごろまで。トレーニングのほかに、解剖学、フランス語、英語、サーカス史、経営などの授業があるそうです。

ここで、バタンバン（カンボジア）の NGO 組織『ファー・ポンルー・セルパク（PPS）』から入学したふたりの生徒と会うことができました。このふたりとは 2010 年に PPS が主催するサーカスフェスティバル『TINI TINOU2010』に参加した時に仲良くなったのですが、まさかここで会えるなんて。再会を喜びました。目黒さんもそうでしたが、彼らもフランス語を流暢に話して周りの人たちとコミュニケーションをとっており、その様子に頼もしさを感じました。みんな成長しています。私も頑張らなきゃ。こちらのサーカス学校には現在日本からも一名、学んでいる女性がいます。

さて、国立モンリオールサーカス学校は「サーカスアーツシティ（Cité des arts du cirque）」、通称『TOHU』（トーフではなくトーユと読みます）内にあります。サーカスアーツシティとは、町をサーカス芸術の首都にしようとするとともに、もともとゴミ処理場だったこの場所を再開発すること、貧困地域を復興することという目的を併せもった都市開発プロジェクトだそうです。例えば、施設内のミニショップではサーカスの本がたくさん売られていたので、たくさん買いました。すると「本を入れるのに使って」と、ゴワゴワした手触りの丈夫そうなバッグをくれました。これは、終了した公演のポスターを再利用して作ったものだそうです。

このほか敷地内にはサーカス学校のほかシルク・ドゥ・ソレイユ本社や、立派な劇場、それにリサイクル工場などの施設がありました。劇場はサーカス学校生や卒業生などのショーを行ったり、子どもたちのワークショップの場としても使われているそうです。学校は厳格でしたが人はフレンドリーで、TOHU 窓口の人は「来年（2013 年）の 5 月にぜひまた訪ねて来て！すごく面白いショーをここでやるのよ」と笑顔で教えてくれました。



←TOHU 内の劇場。

◆国立モンリオールサーカス学校 ([National Circus School Montreal/École nationale de cirque de Montréal](http://www.nationalcircusschool.ca/en/home))

■所在地 8181 2nd Avenue Montreal, Quebec, Canada H1Z 4N9

■公式サイト <http://www.nationalcircusschool.ca/en/home>

■TOHU <http://tohu.ca/fr/accueil.html>

<ベルダンサーカス学校>

トーユを後にし、続けて目指すは『ベルダンサーカス学校』。

ちなみに、モンリオール内での移動はすべて電車を使いました。

トーユの最寄り駅は『JARRY』（駅からバスで 10 分程、地図上の印部分）、ベルダンサーカス学校へは『VERDUN』（地図下）ケベックシティからの長距離バスは『BERRI UQAM』（地図真ん中）という駅でした。



←モントリオール市内の鉄道路線図。駅やホテルで手に入ります。東京の電車に慣れている人なら簡単に攻略できます。

こちらのサーカス学校は、単行本『ケベック発パフォーマンスアーツの未来形』（三元社、2003年）の西元まりさんが書かれている項で知り、カナダに渡ってから連絡をとったところ、急だったにも関わらずコミュニケーション・アシスタントの方が快く迎えてくださり、訪問できることになりました。コミュニケーション・アシスタントの方はカンボジア出身で、前述した PPS とも関わりがあるとのこと。

さて、こちらの学校、設立は 1988 年の NPO 法人。もとアイスホッケー場だったというだけだっ広い練習場を持っていますが、現在改修工事中で、今年の秋に完成予定だそうです。それまでは仮の練習場として近隣の体育館を借用しているとのこと、練習風景を見学させていただきました。↓
現在改修工事中のベルダンサーカス学校



プロを目指す生徒たちのほか、子ども向けワークショップや一般向けのレッスン、企業向けパーティーなども行っているそうです。生徒は約 10 名、先生は 8 名ほど。今はナショナル入学希望者のための準備機関のようになっているのが実状だけれど、将来的にはナショナルと同じくらい大きな学校にしたいとコミュニケーション・アシスタントの方が語っていました。

仮の練習場は広く天井も高い体育館で、マットやトランポリンから空中芸各種が揃っており、私の感覚からいうと十分な環境でしたが、「仮の場所とはいえこんな狭くて小さな場所しかなくて、生徒たちがかわいそうだ…。申し訳ない。早く改装が終わってほしい」と、アシスタントの方が溜息をもらしました。この規模を「小さい」というとは…カナダはほんと、でかいです。

生徒たちの練習は 18:00~21:00 までだそうです、一時間半ほど見せていただいたところでお礼を言ってホテルへ戻りました。実は途中で（トユーで本をたくさん買ったとき）たった一枚のクレジットカードが使えないと言われ、手持ちの現金のみで残り 4 日の滞在を乗り切ることに。節約モードに入るため、最終目的地ニューヨークシティまでの交通手段を安価なバスに決めたのです。飛行機だと \$400 がバスだと \$85 で移動できるのです（時間は 4 倍近くかかりますがしょうがない）。バスの出発時間は 23 :30。9 時間かけて国境を越え、ニューヨークシティへ向かいます。

それにしても、ケベックで乗ったバスでも、ニューヨーク行きのバスでも、Wi-fi が当たり前のように使えました。バスに乗り込むなりラップトップコンピューターを開く人たち、スマートフォンを熱心に眺める人たちを見ていると、日本と変わらない風景だなあ、ところで何をそんなにコンピューターとお話する用事があるんだろうか、乗り物酔いしないのかな、と素朴に思うのでした。（長屋あゆみ）<次号に続く>

最新サーカス公演情報

★木下大サーカス	
●横浜公演 公演期間 2013年2月17日(土)～5月7日(火) ●休演日；木曜日と3月6日(水)、4月17日(水) ●会場；横浜市 JR 桜木町駅前・東 200m 特設会場 ●電話；横浜公演事務局 045-661-0090	
★ポップサーカス	
●佐賀公演 公演期間 2012年12月22日(土)～2月11日(月・祝) ●休演日；水曜日 ●会場；イオンモール佐賀大和南側大テント会場 ●電話；佐賀公演事務局 0952-64-8866	
★セブンフィンガーズ「LOFT」	
セブンフィンガーズ(7Fingers)は、シルク・ドゥ・ソレイユ出身の7人によって、2002年、カナダ・ケベック州モントリオールで結成されたサーカスカンパニー。「7本の指」を意味するカンパニーネームは、フランス語の慣用句、5本の指(日本での毛利元就の三本の矢のような意味)を引用したもので、7は設立時のメンバーの数に基づいている。ダンス、スポーツ、ドラマ、コメディなど、様々な要素が一つになったアート・サーカスは、老若男女をとわず、誰もが楽しめる仕掛けが詰まった極上のエンターテインメント。 ●公演期間 2013年2月7日(木)～2月10日(日) ●会場；KAAT 神奈川芸術劇場 ホール ●お問い合わせ；tvk チケットカウンター 045-663-9999	
★シルク・エロワーズ “ID” (アイディー)	
シルク・エロワーズ (Cirque Eloize) とは、1993年に元シルク・ドゥ・ソレイユのアーティストの一人であったジャン・ペインショー氏によって創設されたエンターテインメント集団。“ID”は、サーカスの真骨頂であるアクロバットと、ダンスとが完全なる融合を果たすことで、全く新しい形のショーを生み出している。 インフォメーションデスク ☎0570-03-8008 ホームページ http://www.fujitv.co.jp/events/id/index.html	
●東京公演 I 2013年2月15日(金)～16日(土) ●会場；五反田ゆうぼうとホール ●全2公演	●東京公演 I 2013年3月6日(水)～22日(金) ●会場；TOKYO DOME CITY HALL ●全24公演
●福岡公演 2013年2月22日(金)～2月24日(日) ●会場；福岡サンパレスホール ●全6公演	●名古屋公演 2013年2月27日(水)～3月3日(日) ●会場；愛知芸術文化センター 愛知県芸術劇場 大ホール ●全8公演
●大阪公演 2013年3月27日(水)～3月31日(日) ●会場；オリックス劇場(旧・大阪厚生年金会館) ●全8公演	※公演日程や休演日などは電話で確認していただくか、公式サイトをご覧ください。

その他公演情報

<p>★サーカスエンターテインメントショー 『ブラビッシモ!!』</p> <p>思わず「おっ！」と声が出てしまうアクロバットに、正確さと美しさを追求したジャグリングなど、人間の身体とテクニクがつくりだす、すごくて楽しいサーカスエンターテインメントショー。</p> <p>■日時：2012年2月17日(日) 13:30 ■会場：めぐろパーシモンホール 小ホール(東急東横線「都立大学」駅)</p> <p>■ご予約・お問い合わせ：スタジオエッグス 03-6421-3171</p>
--

★Iru Speople 旗揚げ公演 “EVOKE” (イヴォーク)

沢入国際サーカス学校出身者ら4名で構成されたサーカス集団「Iru Speople(イル・スペオピーレ)」の旗揚げ公演。ジャグリングやアクロバットを駆使した身体表現で、サーカスの可能性を追求する。

■日時：2013年2月8日(金)～2月11日(月・祝)6回公演

■会場：Live theater 間～まほろ～(京急「梅屋敷」駅)

■チケット：前売2,000円 当日2,500円

■電話：070-6572-6362 ■メール予約：件名を「イル・スペオピーレ予約」とし、①日時②お名前③人数 を iruspeople@gmail.com までお送り下さい。



★クラウンの赤鼻づくり会

オリジナルの赤鼻作りを、各自の顔型(鼻型)を石膏で取るところから行います。

粘土で好みのクラウンノーズを形作り、最終的にはラテックス製のオリジナルの鼻が出来上がります。中にスポンジなどをつめなければ軽いので着けても剥がれにくく、無理してスピリッツガムを使い続けなくても、もう少し肌に優しい接着剤で済むかもしれません。他にない自分だけの鼻を作ってみませんか？

■講師：チーズ(山本静) ■会場：台東区生涯学習センター図工室

■日時：2013年2月20日(水)9:30-16:30(遅くとも13時までに入ってください)

■費用：5,000円(石膏、ラテックスなど材料費込み。制作後は石膏の鼻凸型、赤鼻用凹型もお渡しします。2種類作る方は+500円) ■お問合せ：「カピリア」(チーズ) psycheese21@hotmail.com

■締切：2月13日(定員に達し次第募集終了)



講師：チーズ
(クラウン・
ピンキー)

★山本光洋ソロライブ第8弾 “かかしになるために” ⑧

かかしになるためにも8回目を向かえました。今年は1回のみのお新作公演となります。ぜひお越しください。

■日時：2013年2月22日(金)19:30、23日(土)15:00/19:30

■会場：planB(丸ノ内線「中野富士見町」駅)

■チケット予約：TEL03-3951-1999(平日10時-17時) Fax03-3951-1999

メール info@koyoworld.com ■チケット：予約2,300円 当日2,500円



★実演家向けワークショップ『ラディカルな身体と出会う3日間』

これからもっと楽に、そしてぶれずに演技ができるようになるために、あらゆるモノや空間、自分自身と徹底的に遊びながら「演じること」の基本を全身で考える3日間の連続ワークショップです。

■日時：2013年2月26日(火)～28日(木)各日13:00-16:00(全3回)

■会場：都内施設(参加者の方へ直接お知らせします)

■進行役：ふくろこうじ(クラウン) ■参加日：5,000円

■対象：人前でパフォーマンスや演技をしたい人はだれでも(ただし連続した内容のため3日間ご参加いただける方優先)

■定員：15名(応募締切2月18日)

■お問い合わせ：koen企画 090-8597-7552(奥村) メール info.koenproject@gmail.com

